

THE  
**NA Way**  
MAGAZINE®

世界中で読まれているNAの定期刊行物



出版 30 周年を祝う ◆ 1982 年～ 2012 年

2012 年 10 月発行  
第 29 号 ◆ 4 号



ザ・ジャーニー・コンティニューズ

THE  
**JOURNEY**  
*Continues*





## 世界中で 読まれている NAの 定期刊行物

NA Way マガジンは、ナルコティクス アノニマスのメンバーのための雑誌であるため、英語、ベルジャ語、フランス語、ドイツ語、ポルトガル語、スペイン語など、さまざまな言語で出版されている。そしてこの雑誌の使命は、ひとりひとりのメンバーに回復とサービスに関する情報を提供することであり、そこには回復にまつわる喜びだけでなく、現在 NA で問題となっていることや世界中の NA メンバーのだれにとっても見過ごせないイベントなども取り上げている。編集スタッフはこのような使命に従い、世界中のメンバーが特集記事をはじめとするさまざまな記事を書いて、自由に載せられる雑誌にしようとするのはもちろん、現在行われているサービスやコンベンションに関する情報を提供することにも力を注いでいる。だが、これが定期的にメンバーに届く雑誌であるからには何よりもまず、『アディクトであれば、どんなアディクトであっても、薬物を使うのをやめることができ、使いたいという欲求も消え、新しい生き方を見いだすことができる』という NA の回復のメッセージをたたえることにこそ力を注ぐ。

**NA World Services, Inc.**  
PO Box 9999  
Van Nuys, CA 91409 USA  
Telephone: (818) 773-9999  
Fax: (818) 700-0700  
Website: [www.na.org](http://www.na.org)

NA Way マガジンでは、読者のみなさんが参加されるのをお待ちしております。この年に4回発行される定期刊行物によって、ぜひ、世界中の仲間たちと分かち合いをしていただきたい。回復するなかでの経験はもちろんのこと、NA のさまざまなことに関する意見や、これからの課題などについても投稿をお待ちしている。ただし、投稿された原稿はどれもみな、ナルコティクス アノニマス ワールドサービス社に所有権があるものとされる。購読の予約、編集に対する意見のほか、著作権など実務的なことでの相談は、PO BOX 9999, Van Nuys, CA 91409-9099 にお問い合わせいただきたい。

NA Way マガジンは、NA メンバーがそれぞれに自分で経験したことや自分なりの意見を紹介する雑誌である。ここでは NA 全体の意見は表明されていない。そしてもちろん、ナルコティクス アノニマス、NA Way マガジンまたはナルコティクス アノニマス ワールドサービス社によって支持されていると受け取れるような記事も掲載されてはいない。また、インターネットから NA Way マガジンを配信することを希望する場合には、上記のアドレスに手紙をいただくか、[naway@na.org](mailto:naway@na.org) に eメールをいただきたい。

NA Way マガジン (The NA Way Magazine : ISSN 1046-5421)、NA Way (The NA Way)、ナルコティクス アノニマス (Narcotics Anonymous)、この3つは、ナルコティクス アノニマス ワールドサービス社のトレードマークとして商標登録されている。NA Way マガジンは、ナルコティクス アノニマス ワールドサービス社 (19737 Nordhoff Place, Chatsworth, CA 91311) によって、年に4回発行される。

# 編集者から、ひとこと

今回は NA Way マガジン 30 周年を祝う最終号ということで、これまでに掲載された記事を再登場させて NA Way の歴史となりがわかるようにしている。このため、30年にわたって発行された219の号を見直すことになり、何時間もかかってしまった。どの号にも、心に響くとおきの話がほんとうにたくさん掲載されていた。今月号に再登場するのはそのごく一部でしかない。それをどうやって決めたのか？ NA メンバーたちはもちろんのこと、過去から現在までの NAWS (NA ワールドサービス) のスタッフと編集者たち、そしてさまざまなサービスにつくす信頼されるしもべたちに、それぞれの思い出を伝えてくれるようお願いした。かぎられた誌面で、わずかながらでも30年の歩みを物語るような記事を登場させるべく、わたしたちは最善を尽したのだ。

このような作業に対して、信頼されるしもべたちによる一つのグループが (いつものごとく) 非常にすばらしい貢献をしてくれた。そうやって NA Way マガジンの編集者たちは最初から、献身的な NA メンバーたちによって支えられてきたのだし、そのようなメンバーたちがいたから NA Way マガジンはその名に恥じない真に意義のある雑誌になれたのだ。このグループは当初、「NA Way 小委員会」と名付けられたが、のちに検討委員会や編集委員会などと呼ばれるようになり、現在では「NA Way マガジンワークグループ」として知られている。世界中から集まった NA メンバー (現在は7名で、出身地はオーストラリア、イラン、南アフリカ、アメリカ合衆国) によって、それぞれの経験と力と希望や、ユーモア、分析、警告、恐怖や怖れ、フィードバック、ガイダンスなどがわかちあわれる。このメンバーたちを抜きにして NA Way マガジンを編集するなど想像もできないことだ。NA では、これみよがしに褒めちぎるようなことはしないものだが、現在のワークグループのメンバーたちと前任者たちはつねに盛大な拍手と温かいハグに包まれるだけのことがある。そして実際に、NA の信頼されるしもべたちはみんな、NA のメッセージを運びやすくするために尽くしてくれているのだから、30周年を祝う最終号ぐらいは、このしもべたち全員を大っぴらに褒めたたえてもいいのではないだろうか。

ド・J (エディター)

Electronic subscribers can click here  
for exclusive historical NA Way Magazine content.

## 今月号の掲載記事

<b>特集記事</b>	<b>3</b>	<b><a href="#">「私たちの未来像」に投資しよう</a></b>	<b>10</b>
• NA Way マガジン 30 周年記念		<b><a href="#">検討されるべき課題</a></b>	<b>11</b>
<b>ホームグループ</b>	<b>4</b>	<b><a href="#">WCNA 35 (第35回 NA ワールド</a></b>	
<b><a href="#">わかちあい</a></b>	<b>5</b>	<b><a href="#">コンベンション)</a></b>	<b>15</b>
• 84 日間の自由		<b><a href="#">Picture this</a></b>	<b>18</b>
• シンプルな方がいい		<b><a href="#">H&amp;I スリム</a></b>	<b>20</b>
• 神、導師、NA で約束される未来		<b><a href="#">Our readers write</a></b>	<b>20</b>
• どうやって信じるようになったか		<b><a href="#">Calendar</a></b>	<b>21</b>
• 回復の雰囲気は、壁の色にもにじみ出る？		<b><a href="#">Product Update</a></b>	<b>22</b>
• 二つのキータグが物語るもの		<b><a href="#">Living Clean:</a></b>	
• 神なしで回復の道を歩む		<b><a href="#">The Journey Continues</a></b>	<b>24</b>

NA Way マガジンでは、読者のみなさんからののお便りをお待ちしている。掲載された記事に対する感想はもちろん、NA という集まりのなかで取り上げられている問題についてひとつの考え方を示すにすぎないものであっても、エディター宛に送っていただきたい。250字以内にまとまっていれば、そのまま編集の手を加えずに掲載されることになっている。お便りには、本名、現在使われている住所および電話番号を明記することをお忘れなく。掲載される場合には、アノニマスという希望がないかぎり、ファーストネームと苗字のイニシャルを署名として用いることになる。

# ◆ ◆ ◆ 特集

前略。

みなさんにうれしいお知らせがある。1982年ワールドサービスカンファレンスでは新しいサブコミティ（小委員会）が結成され、「NA way（NAで歩むアディクションからの回復の道）をテーマとする月刊誌を発行する」ことになったのだ。

だが、その名も『NA Way マガジン』という私たちの雑誌は、みなさんの協力がなければ夢に終わってしまう。ぜひ、アディクションからの回復に関する記事を送っていただきたい。NAの回復のメッセージをわかちあうことにまつわるひとりひとりの体験談、スピリチュアルでインスピレーションを与える記事、ユーモアがあつていろいろと考えさせられる成長の体験記、社会の一員としてきちんと責任を果たしていけるようになるまでの話、思わずうならされるようなしゃれた言い回し、NAの伝統を実際に生かしていくなかでメンバーやグループがそれぞれに経験したことなど、どんなことでもいい。みなさんが投稿してくれなければ、始まらないのだ。

第12回NAワールドコンベンションが終了するまでに年間購読の申し込みをすれば、12号分で8ドルになる。滑り出しとしてはこれで十分だろうと思っている。そして説明責任を問われることがないように、毎号、財務に関する報告を掲載していくつもりだ。

なお、この雑誌では、記事はすべてアノニマス（無名）で掲載されることになる。みなさんが陰ながら支えてくれるおかげで、私たちの夢が実現していく。NAで回復の道を歩むための月刊誌によるフォーラム、すなわち世界中のNAメンバーたちが心をひとつにする定期刊行物が誕生するのだ。

サービスに心をつくつつ、  
NA Way マガジン

ここに掲載した手紙は、1982年9月に発行されたNA Way マガジンの第1号で紹介されたものである。NA Way マガジンはそれ以来、NAで信頼されるしもべとなっているメンバー、ワールドサービスのスタッフ、献身的な編集者たちが「チームを組んで発行されてきた。ここでは、歴代の編集者がNA Way マガジンで経験したことを、バックナンバーの誌面やEメールによるやりとりから抜粋して簡単にお伝えしよう。

NA Way マガジンは毎月発行とし、NAで歩むアディクションからの回復に焦点を絞ることになっていた。それは今も変わらない。掲載される小文や記事は、はっきりしてわかりやすく、言いたいことが確実に伝わるものであると同時に、NA文献に収められた原理やNAのプログラムから外れるものであってはならない。このような考えで編集しようと、私たちは心をくいだしたのだ。

ジム・M

編集者の夢は、NA Way マガジンが世界中のNAメンバーたちに受け入れられて、喜ばれ、毎号つづけて読んでもらえるようになり、NA全体でメッセージを運ぶ取り組みの中心的存在と考えることだ。

ロン・H

NA Way マガジンの読者たちは、わかちあいにイニシャルが入っているから仲間の話だと思えるのだし、それによって何度読んでも共感できるのだ。

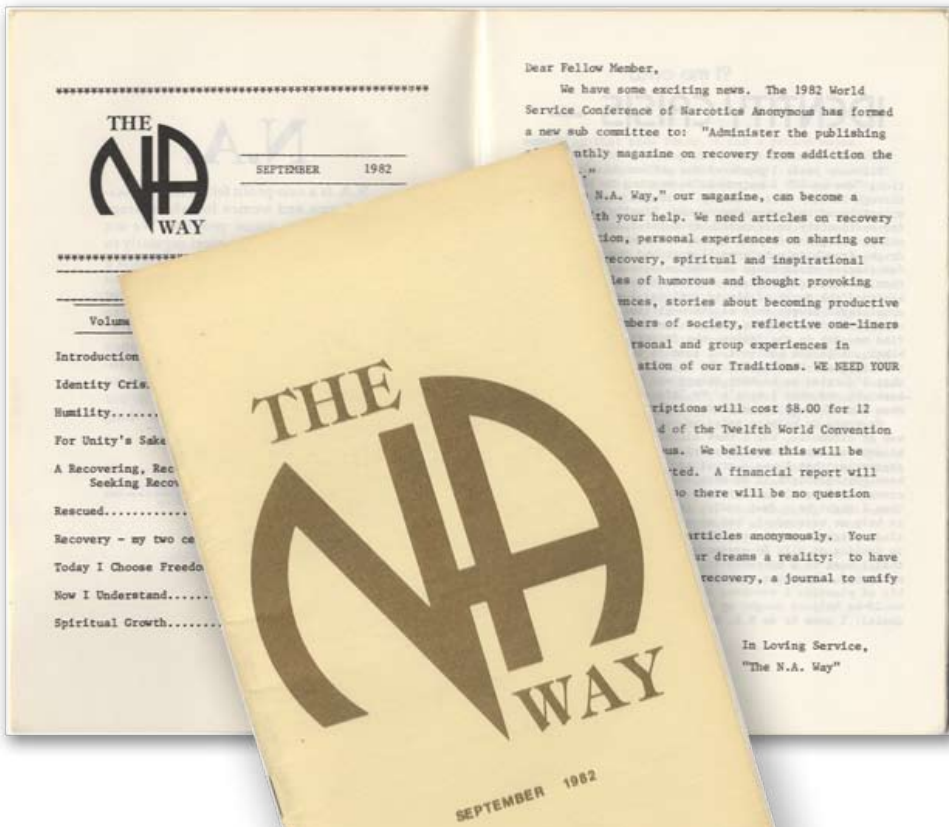
アンディ・M

世界中の仲間たちが、NA Way マガジンによって自分にはない物の見方を知ることになったのだから、この月刊誌によるフォーラムは貴重な場になっていると思った。

シンシア・T

このNA Way マガジン20周年記念特別号を発行するにあたり、わたしたちは保管されている資料を調べた.....古いバックナンバーに掲載された仲間たちの考えや心に触れるわかちあいを読んでいると、自分がNAにつながって回復の道を歩みだしたころに経験したことがあれもこれもと思い出された。

ナンシー・S





# ホームグループ

この『ホームグループ』というコミックは、NA Way マガジン 1989年1月号で読者に紹介された。「ここに登場するのは、みなさんが毎週、自分たちのホームグループで見かける連中だ。そして、これからは毎月、NA Way マガジンの新連載コミックで目にすることになる……」こうして毎回、ユニークなキャラクターが登場し、私たちの病気ぶりやNAで回復する姿をユーモアあふれる視点から演じて見せてくれた。みんな、何かとお騒がせで、いささか痛いところを突いてくる。そんな連中のなかでもスラッグは「年がら年中怒ってばかりいて、何があるかと抵抗をやめず、とびきり不幸でみじめなメンバー」だった。

そのスラッグと仲間たちは、もっと新しい時代の『ホームグループ』を楽しんでもらうために2001年の10月号で引退した。そして2002年の1月号から『ホームグループ』で活躍するようになったキャラクターたちは、スラッグたちより「寛大で、おだやか」だった。その分、NAのことも回復のことも全体的に眺められるとみえて、連載が6回目を迎えるころには、何らかの教訓を学んだり教えたりすることができるようになっていた。その後、NA Way マガジンは2009年の1月号を境に、メンバーたちによるアート作品や、ジョークをはじめとするいろいろな楽しみを提供しながら、回復のおもしろみをさまざまなかたちで伝えるようになっていき、それとともにこの『ホームグループ』のメンバーたちもそれぞれ自分自身のことに取り組むようになった。ここでは、NA Way マガジンの30周年を祝いつつ、『ホームグループ』というコミックのなかでお気に入りの場面を2つ振り返る。

さあ、みんな、マスターしよう。

スラッグの描き方

まず、底辺をとがらせたU字を描き、両耳は3を向かい合わせにして描く

髪のをぐちゃぐちゃに描きながら、額の中央でカーブするようにメガネのフレームを描く

さて、表情には、自分の性格をしっかりと描き込んでいこう……

自己チューで執念深い

根みっらみで悶々としている

自分のことはさておき、人の嘲諷ばかりしている

ここまで描いたら、もう完成だ

いやはや、真に迫っているゾウ木願負けの作品だ

NA Way マガジン 1998年7月号

回復の道を歩むまで、私たちには人生の暗い面しか見えない

回復の道を歩み出すと、私たちは現実をしっかりと見てのびのびと生きられるようになる

NA Way マガジン 2002年10月号



## 84 日間の自由

編集者記：イランでは H&I（病院施設）小委員会が結成されたことで、国内にある刑務所からパヤム・バブーディ（イランの NA で発行されている回復に関する定期刊行物）に定期的に便りが寄せられるようになってきた。そのなかからここに掲載した便りには、特別な思いが込められている。イランの刑務所では薬物が出回っていて安い値段で手に入るにもかかわらず、収監されている間に NA の生き方ができるようになった仲間からの便りだ。

俺の名前はハビブ。アディクトだ。カズヴィーン（イラン北西部にある市）の中央刑務所にいるアディクトのみんなと、世界中の NA グループの仲間たちにひとこと挨拶しておきたい。

俺は今、人生の最後のひとときを過ごしながら、この手紙を書いている。もう、命が尽きたも同然なんだ。そんな俺でも、NA の仲間たちみんなにメッセージを送れたらと思う。俺は刑務所内のナルコティクスアノニマスのミーティングでクリーンになり、そのままミーティングに出続けることで使わなくても生きられるようになった。神をとて身近に感じるようになって、気分がいいし、この世界とも自分とも折り合いがついている。俺は、神の意志を受け入れたんだ。

そこで、NA の仲間たちに頼みがある。どうかクリーンでいて、サービスにかかわってもらいたい。ほかのアディクトたちが身も心も、そしてスピリチュアルな面でも、クリーンでいられるように手をさしのべてやってくれ。NA の回復の道を歩み続けて、ほかのアディクトたちを救ってほしいんだ。今の俺には、ほかに何と言っていいのかわからない。このハビブという名のアディクトは、夜明けにはこの世からいなくなっているだろう。自分が犯した罪のために絞首刑になるが、それでも俺は仲間たちのそばで 84 日間クリーンでいた。NA につながれた仲間も、NA につながれずまだ苦しんでいる仲間も・・・世界中のアディクトがみんな、アディクションのとらわれから自由になれることを心から願うばかりだ。

幸運を祈る。

ハビブ（イラン／カズヴィーン）  
NA Way マガジン 2006 年 10 月号

『パヤム・バブーディ』の許可を得て  
2006 年春第 6 号より転載



## シンプルな ほうがいい

ぼくは NA につながるまで、人生はフクザツなものだと思っていたし、自分がフクザツな生き方をしていることを誇りにしていた。何につけても、自分ほど「本質」をきわめている人間はいないと思いあがっていたんだ。シンプルな生き方や考え方をするという発想は、ぼくにはまったく不可解で縁のないものだった。

こうしてものごとをフクザツにする能力をもって回復の道を歩みだしたことで、ぼくは毎日、この能力を発揮しないように注意しなければならない。クスリなしで一日が過ぎたら、その日はそれでよしとすることを忘れてはいけない。今のぼくの人生で何よりも重要なことは、ミーティングに通うことと、クリーンでいることだ。この2つを、わかりきったことだとばかりにはならない。回復をフクザツなことにしたが最後、ぼくは思い通りに回復しようとはし始めるし、自分の意志を使うようになってしまうんだ。

分析によるマヒは、ぼくの病気の重大な症状のひとつになっている。ああでもないこうでもないとむずかしく考えて自分の行動を正当化し、何も感じていないことにしてしまうんだ。2 番目のステップへの取り組み方が、よい例だろう。ぼくは、すでにスピリチュアルな目覚めを経験して神の意志というものを知りつくしていることにして、ステップ 2 に進んだ。でも、そんなぼくの信じる神は、どうも理性を欠いているようでかなり支離滅裂(しりめつれつ)だった。これでは、いくら意識的なふれあいをしたくても無理な話だとわかった。

ぼくは自分の知性を神と見立てて、アディクションによるとらわれと闘い続けていたんだ。ぼくが本当にハイヤーパワーを見いだしたのは、降伏とやる気、正直さを通してだった。そして、ハイヤーパワーはシンプルなことを好むのがわかった。ぼくの場合、自分に正直であるのがいちばんシンプルになれることで、不正直であるのはフクザツにするもっとも危険な徴候だ。これを書いているときでさえ、説明することによってフクザツにしているのではないかと思ってしまう。アディクトがフクザツな人種であるとしてもこのプログラムはシンプルだ、と言われているしね。むずかしく考えたら、ぼくはプログラムと闘うことになるんだ。シンプルにしようと思えば、ハイヤーパワーとミーティングがぼくに効果を発揮するチャンスがあるのだろう。

N (英国/ロンドン)

NA Way マガジン 1985 年 4 月号

## 神、導師、 NA で 約束される未来

私の場合、回復の転機が訪れたのは、クリーンになって 18 ヶ月ぐらいてからのことだった。ステップ 1 を実行するのにそれほど長い時間がかかった。そう、1 年半だ。その間、アディクションという病気に無力ではないことを示そうとやっきになっていた。クスリは使っていなかったが、それでも私の行動はいぜんとしてとらわれや切迫した思いや衝動に支配されていた。そうやって 18 ヶ月の間にしようこりもなく失敗を重ねたことによって、ようやく無力さを思い知ったのだ。この時点で、クスリが私の生活から取り除かれて久しかったのだから、クスリに対してだけではない。このアディクションという病気に対してもだ。なるほど、ステップ 1 に書かれているとおりだった。

こうしたことが、ステップの 2 と 3 に取り組むきっかけになった。何もかも順調に思えた。だが、この 2 つのステップでもやはり、長い間あれこれと迷いながら悪戦苦闘することになったのだ。このような苦闘とそこからもたらされた洞察のいくつかを、世界中の仲間たちにお話したいと思う。

私は、自分の問題をどうしていいのかわからなかったので、答えを求めて右往左往した。そして、いろんなところで助けが見つかった。アディクトたちからも、アディクトでない人たちからも、そしていわゆる「目からウロコが落ちる方法」などからも、必ず何かが見つかるように思えた。それで、わけがわからなくなってしまったのだ。私のほかに、似たようなことをやっている連中がいたので、私は一歩引いてその様子を見ていることにした。

それから何ヶ月もして、私はなにがしかの洞察(どうさつ)を得るようになった。そして、このような洞察(どうさつ)を得る手段がどれもみな、「導師」ようになっていったようだ。私たちの多くは熱心に回復を求めながら、いろいろなところから導きもたらされていた。私たちはそのとき、このような導きの供給源をさぐりあて、それを人生のさまざまな問題に対して万能の答えをもたらしてくれるものにしていったのだ。

うまくは言えないが、どういうわけか、私もほかの仲間たちも回復のために個々の人物や方法を当てにしていた。それは、人や場所やものごとを利用する新しいやり方だった。つまり、手だてになるものを回

復に役立てるということせず、自分の回復を他人や組織まかせにしたのだ。

依存が浮きぼりになるにつれて、このままではあつという間に何もかも台無しになることがわかった。まったく、無責任もはなはだしい。私は、自分ではステップ 2 と 3 に進もうとせず、他の誰かに自分のやるべきことをさせようとしていたのだ。こんなことをしていたら、自分自身の回復だけでなく、ほかの仲間の回復も妨げてしまう。ひとりひとりの人間に期待することで、その人たちが本来もっている以上の力をもっていると思ひこむのを助けることになるからだ。そうやって私は、自分の命と仲間たちの命を危険にさらしていたのだ。

それからは、自力で何とかしようとか人をたよりにするのではなく、人知を越えた力を探し求めるようになった。この力は、NA でハイヤーパワーとなって存在していたのだ。グループやエリア、リージョン、ワールドサービスカンファレンスをはじめとして NA 全体で働いているが、だからといって、いつもメンバーを通して働くとはかぎらない。私は、そういう力を味方につけたのだ。それは、導師でもない。名前もない。自分の望む通りにほかの人々を変えたりもしない。そして、NA でハイヤーパワーとなることで 12 のステップを通して働き、私を『ベーシックテキスト』でただひとつ約束されている未来へと導く。

NA の『ベーシックテキスト』には、こう書かれている。「ナルコティクス アノニマスが示してくれる約束はただ一つ、それはアディクションの進行からの解放だ。それは私たちが長い間手にすることのできなかった解決の方法である。そうして自分で作りあげた牢獄から解放されるのだ」(『ベーシックテキスト』第 10 章「さらなる大きな気づきへ」)

こうして NA で約束される未来は、なに不自由のない人生を保証していない。単に、そのような人生を求めて努力する機会が与えられるに過ぎない。私は、自分が望むことをやり通したいなら、定期的に動機と方法を検討すればいいのだ。人生のちょっとした出来事につまづくことがあっても、よい経験になる。

このような考えと経験は、私にとって非常に大切なものになっている。だからこそ、手放すだけの価値があるというものだ。ほしいと思う人は、どうか受け取ってもらいたい。

SS (アメリカ合衆国/コロラド)

NA Way マガジン 1985 年 10 月号

# どのようにして 信じるようになったか

部屋は、人でいっぱいだった。NAのミーティングに出席するのは、これで2回目。1回目は、入所中の解毒施設で開かれたミーティングだった。その部屋に集まった人たちをひとりひとりみていくと、身なりのきちんとした人たちが目があった。わたしをNAに紹介してくれたメンバーたちだ。目を見つめて、にこやかにうなずきあった。わたしは人々が声を上げてあいさつし、ハグして、笑っているのを眺めていた。自分もいつか、あんなふうになれたらいいのと思った。

このような集りからはたいして得るものがない、という気がしていたのだが、スピーカーをした男性の話はとても感動的だった。よくまあ、どん底の生活から抜け出して何年もクリーンタイムを重ねたものと、驚くばかりだった。わたしなんてクスリに溺れたといってもしよせんは主婦だから、バイクを乗り回したり路上生活をしていたりしたメンバーたちの気持ちはほとんどわからないといっただけ。それが、いつしかアディクトなら感じていることは同じだと思いはじめていた。わたしは、この仲間の集まりに多くを求めているのだと思う。わたしを治して。愛して。自分に自信を持てるようにして。今すぐにも。

わたしは「歩みを止めるな」という言葉が頭から離れなくなってしまったみたいで、ミーティングにしっかり通い続け、そのうちにスポンサーができた。

はじめのころは、神についての話がでることに本当にウンザリさせられた。それでも出席を重ねていると、このプログラムのことも、神については自分なりに考える自由があることも、それまで以上に理解するようになっていった。『ベーシックテキスト』を読むこととスポンサーに相談することも役に立った。ほかのメンバーたちにはハイヤーパワーというようなものがある、それを生きる指針にしていたが、そうすることで状況が本当に良くなっていくのがわかった。昔、わたしは神に祈りながら、神にはたぶんわたしの祈りがはっきり聞こえていると実感したことがあるけれども、ハイヤーパワーの助言を聞いて理解し、それを生きる指針としていくにはやる気と忍耐がかなり必要だ。

わたしはスポンサーに勧められるまま、毎日、静かに座って短い詩を読み、祈りや黙想を行い、未知の可能性にしっかり目を向けた。すると、向こうに何かがある。大いなる愛にみちた力強いものが、まさにわたしのために存在していたのだ。

わたしはやる気を求めて神に祈り、信じて任せようとした。神は人や場所やものごとを通して働くということを耳にしていたので、わたしにそれを示してくださいとお願いした。でも、そうすると神の手がゆだねることはできなかった。どうして神は、わたしがメチャクチャにしたこと

尻ぬぐいをしなければならぬのか。そういうことは、わたしの責任ではなかったのか。そんなわたしに、神はわたしがものごとを何とかするのを本当に助けたいと思っているのだからと、スポンサーは言ってくれた。なるほど、それなら、わたしはひたすら神を信じることにしなとかがお任せしてみよう、と努力した。

というわけで、わたしの人生には不思議と偶然に歩みをうながす出来事が起こり、わたしは今こうして神を信じて疑わなくなった。それにしても、こんなに素晴らしい贈り物を受け取るようになるなんて。やっぱり、信じる気持ちは大事にしなくてはね。

BC (カナダ/ブリティッシュ・コロンビア)  
NA Way マガジン 1995年 11月号

## 回復の雰囲気は 壁の色にも にじみ出る

僕たちが回復の雰囲気について語るとき、ミーティングの行われる会場のことを参考にすると仲間たちがいる。それで、会場がどのように整理されているか、壁に塗られたペンキの色、タバコを吸えるミーティングか、禁煙のミーティングかなどが問題になる。その一方、わかちあいの様子や種類、どのようにミーティングが運営されているか、仲間たちとの交流、メンバーのグループへのけい込みなどが参考になると思っている仲間たちもいる。僕も、そのひとりだ。

僕がはじめてNAにつながったのは、小さな町でのことだった。そのとき、ミーティングにはメンバーが2人しかいなかった。グループのメンバーは5人だが、ミーティングにきちんと出席しているメンバーは2人だけだったんだ。そんなわけで、ほとんど論争にはならなかった。ものごとはスピリチュアルなやり方で行われた。グループはNAの原理に従おうとし、とどまるか去るかにかかわらず誰でも受け入れられた。

そうこうするうちに、僕はその町の別の地区に引っ越さなければならなくなった。そして対立ばかりしているグループに出席するようになり、これまでとはちがう雰囲気のなかに身を置くことになったんだ。そのグループのかもしれない雰囲気には、使っているアディクトたちや、出たり入ったりしているアディクトたち、(集団療法のような) お互いの問題点を容赦なく指摘し合うやりとり、信頼の欠如と不誠実さなどが入り交じっていた。しかも、大げさではなく、そこにはどんよりした雰囲気が漂っていた。タバコの煙が充満していたんだ。このような雰囲気が自分に効果があるとはどうしても思えなかったし、

グループを変わろうかとも思った。だって、これじゃ、NAのグループというより治療施設のようだったから。

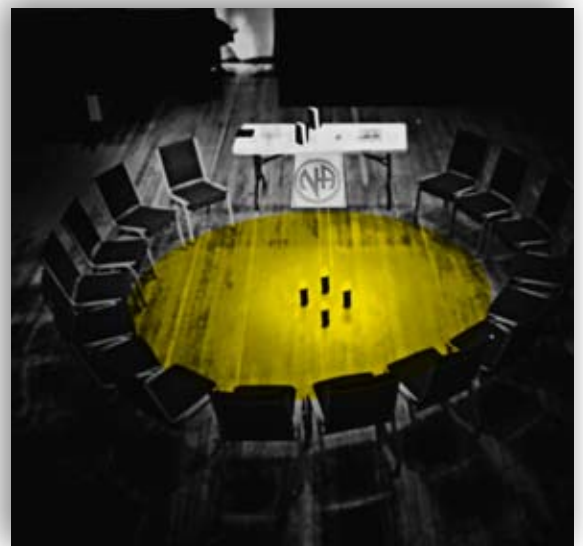
そしてたまたま、僕はそのエリアのオールドタイマー (古いメンバー) と出会うことがあり、自分のいるグループで起きていることについて疑問に思う気持ちを聞いてもらった。このオールドタイマーは何人かの仲間たちと新しくグループに出席しているということで、僕にその気があるならそっへ来ればいいと言ってくれたが、でも、あえてこのままホームにとどまったらどうかとも勧められた。そうすれば、僕が成長するうえで役に立つことをたくさん学べるだろうというのだ。今ホームで経験していることが回復に役立つって一体どういうことなのか。このオールドタイマーと別れてからも、僕は考えていた。

それでもやはり、僕はもうホームに行かないという考えでいた。なにしろ、僕はクリーンになって6か月目に禁煙したというのに、ホームのミーティング場ではみんながひっきりなしにタバコを吸っているんだ。ミーティングが終わるころには、かならず身体の調子が悪くなっている。

そんなある日、ホームに行ってみたら、なんと、グループの良心によってホームのミーティング会場では禁煙することに決まっていたではないか。もしかすると、僕は考えた。こうしてささやかではあっても重要な変化が、時間とともにいろんな面に反映されるようになるのかもしれない。このグループでは、そうやって回復の雰囲気がつられていくんじゃないか。だから、この成長のプロセスを僕たちは進んで経験しようとしなければならない。経験豊かなメンバーたちが語ってくれたのは、そういうことなのだ。

NAという仲間の集まりによってもたらされる成長を経験できるように、今日一日だけ、僕はホームのミーティングに通い続ける。

ジョエル・O (メキシコ/メヒカリ)  
NA Way マガジン 2005年 10月号



クリス・M (アメリカ合衆国/カリフォルニア)  
NA Way マガジン 2005年 10月号



# 二つのキータグが物語るもの



## ミズーリでの話

それは明け方の4時近くのことだった。おれは空港勤務で、同僚に代わって夜勤についていたんだが、まったくヤバい状態になっていた。友だちがひとり、死にましたし・・・それもあってこの1、2ヶ月荒れまくった。そういう自分に嫌気がさしてすっかり落ち込んでたんだ。

おれは、どこかいベルト・コンベヤーの方に向かって行った。そこには乗客全員の手荷物が待機していた。その朝の便は満員だったので、コンベヤーはすし詰め状態だった。おれはボスの横に立ってコンベヤーに載った荷物を振り分けていた（ボスはNAメンバーじゃないが、おれがメンバーだってことは知ってるんだ）。すると、そこに、白いキータグのついたスーツケースがあるじゃないか。

「おいっ、おい、おい、ほら！ 見ろよ、こんなのがあったぞ！」。おれは思わず、叫んでいた。そして名札を見ようと、そのスーツケースをコンベヤーから引き出した。たぶん知ってる仲間のだけかだろうと思ったんだ。名札に書かれていたのは見覚えのない名前だったが、でも、そのスーツケースの行き先はロスアンジェルス国際空港だってことも、だれだかわからない仲間の名前はカリフォルニアのボブだってこともわかった。そこでおれはボスに言った。「おれのタグをひとつ取ってくる。こいつの荷物にくっつけてやるんだ」。

「俺ならそんなことはしないな」とボスが言い返した。

だから言ってやったよ。「わかってるよ。あんたはやんないだろうさ。でも、おれはやるんだ」ってね。

「ロスアンジェルスについて、おれのタグがついているってわかったら、そいつはなんとも愉快的気分になるさ！」おれはスーツケースをコンベヤーに戻し、キータグを取りに駆け出した。それで、戻ってみると、スーツケースがないじゃないか。やれやれ、ふりだしかよ、と探し始めたところで、「ほら、あそこだ、あそこ！ 一回りして戻ってきたぞ！」って叫んでるやつがいる。何だよ、ボスじゃないか。

自分の黒いキータグを取り付けながら、おれは思ったね。NAで回復しつつある手荷物係は、おれだけじゃないだろうから、ロスアンジェルス国際空港で働いている仲間も、この二つのタグに目を留めるぞってさ。スーツケースをコンベヤーに戻したときには、最高に幸せな気分になった。あんなにヤバい状態だったのにな。でも、あの白いキータグを目にしたことと、その持ち主がおれのキータグを目にしたときの反応を想像することで、心が動かされたんだ。

その日、後になって、おれはそのいきさつをミーティングで話した。そしたらミーティングの後で、ひとりの仲間がこう言うんだ。自分の知り合いの女性が、友人のソーシャル・ネットワーキングのページで例のスーツケースの写真を見たってね。おれはコンピューターを持ってないんで、その女性の家に行き、例のスーツケースにくっついた二つのキータグの写真を見せてもらったんだ。なんと、その写真には、世界中の回復しつつあるアディクトたちのコメントが40もくっついてるじゃないか。おれはヤワな人間じゃないけど、あの写真を見つめたまま、そこに突っ立って泣いてたよ。おれはさ、仲間をちょっと笑わせてやるって思ったんだけど、こんなに受けるとはね。まあ、それはさておき、おれにもまた友だちができた。そいつのことは「キータグ・ボブ」って呼んでるんだ。

ロイド・L (アメリカ合衆国/ミズーリ)  
NA Way マガジン 2010年1月号

## カリフォルニアでの話

私はついこのあいだ、末の弟の用事で生まれ故郷に行ってきた。弟は重度の脳性麻痺で、生まれつき身体が自由がきかない。その健康状態が悪化してしまったので、ホスピスのサービスが受けられるように手配しなければならなかった。言うまでもなく、このような旅は気が重い。場合によっては心を鬼にして話し合わなければならぬだろう。そうやって、この末の弟がもう長くはないという現実に向き合うのは辛いことだ

しかも、現地につくまでが大変だった。機械系統の問題や天候による遅れが生じたり、乗り継ぎ便を逃したりと、到着が予定より10時間も遅れたのだ。それでも、滞在中にミーティングに出席する時間はないことになった。それでも、なんとか娘の家に着き、4人の孫から温かいもてなしを受けて元気を取り戻した。

弟には、帰る日の朝に弟の行きつけのレストランで会い、これからのことを説明することができた。弟は、私の話を喜んで聞いてくれたわけではないしろ、成り行きにまかせるという意志を示した。私たちは、弟の求めるままに別れのキスを交わしたが、これほどの思いで別れを惜しむことは長らくなかった。

そして、帰路も長い道のりだった。飛行機は雨のなか、ロスアンジェルス国際空港に着陸した。ジトジト降る雨は、私の気分にはびつたりであった。今回の帰省は、これまででももっとも過酷な週末旅行のひとつであったため、感情的にも身体的にも疲れきっていた。私は手荷物受け取りコンベヤーのところに行き、スーツケースをひっくり返して自分のものかどうか調べた。そこで、荷物に手を伸ばしたときのことだ。私の驚きを想像してほしい。私はここ何年にもわたって、白地にNAと書かれたキータグを荷物の識別札にしているのだが、そのタグに、ロスアンジェルスに到着するまでのどこかで黒いキータグが付け加えられていたのだ。私は二つ重なったキータグを携帯で写すと、「どこにでも仲間がいる」というタイトルを添えて、自分が利用しているソーシャル・ネットワーキングのページに転送した。

次の日になって、ミズーリの仲間から知らせが入った。昨夜のミーティングで、空港の荷物係をしているメンバーが仕事に白いキータグのついた手荷物を目にしたという話をしていたというのだ。旅の終わりにスーツケースの持ち主がどんな反応をするか考えながら、自分の持っている黒いキータグのひとつを取りつきたいきさつを詳しく話したらしい。2、3週間後には、この荷物係のメンバーと連絡がついたので、私は感謝の気持ちを伝えることができた。このメンバーのおかげで、回復はつねに手の届くところにあるということ、自分はひとりではないということを感じさせてもらったのだ。

ボブ (アメリカ合衆国/カリフォルニア)  
NA Way マガジン 2010年1月号

# 神なしで回復の道歩む

2, 3カ月前のことだ。私は、人数の多いミーティングで、ホームグループを自分より偉大な力にすることについてわかちあった。ミーティングが終わると、ひとりの仲間が私のところにやってきた。「あなたは神の存在を信じていないのね」と聞くので、私は「信じてない」と答えた。すると、この仲間はつづけて言った。「存在するにきまっているじゃない。あなたはこれまでずっと、行くべき教会をまちがえてたのよ」。私は笑いをかみ殺すのが精いっぱいご意見ありがとうございますとだけ言った。

この手の出来事はたちの悪いものではないにしても、よくあることなので迷惑もいところだ。私はNAにつながったときに、ハイパーパワーはどのようなものであってもかまわないと教わった。自分のことを大切にしてくれて、なおかつ自分より偉大な存在であればいいからだ。そして、NAのホームグループはこの条件を満たしていた。だから私は、これまでホームをハイパーパワーとしてきたのだ。すでに8年以上経ち、今もこうしてクリーンであり、心おだやかな状態である。

回復の道歩む無神論者（むしんろんしゃ）というのはめったなことではお目にかからないか、あるいは肩を寄せ合ってまったく目立たないようにしているか、どちらかである。神の存在を信じようとしないうことは悪いイメージがつきまとうため、自分たちの無信仰を胸に秘めておく傾向があるからだ。それでもなかには1人ぐらい、自分たちは神なしで回復の道歩んできたという事実をはっきりと口にする者がいてもおかしくはない。だが、それによって私はずっと孤独を味わった。私の無信仰は、周囲の考えと真向から対立するからだ。ほとんどの仲間が、クリーンになる道はひとつしかないと思っている。つまり、神とともに歩むということだ。そしてNAの文献でも、私たちのような無神論者（むしんろんしゃ）の反感を買わないように神をどう解釈するかは自由としながら、あくまで神というものへの信仰を説く。

私は自分が無神論者（むしんろんしゃ）であることを「カミングアウトする」べきかどうか、長い間悩んだ。そしてついにかミングアウトした。すると驚いたことに、回復の道歩む仲間たちだけでなく、アディクトではない人たちからも支持してもらえたのだ。それでわかったのは、回復のために

他のみんなが信じているからといって、自分も同じように信じる必要はないということだ。そして、ステップをやるときだって、自分が信じてもないものに祈る必要はないとわかった。ただ、誤解しないでほしい。NAの中でも外でも、私の迷える魂が心配だとはっきり言った人や、私はまちがっていると断言する人たちがけして少なくはなかったのも事実だ。だが、それも全体としてみればそう多くはなかった。私はステップを実行していくことによって、自分以外のだれかに自分の価値を認めてもらう必要はないことに気づいた。だから無神論者（むしんろんしゃ）だって回復する。私はそのことを身をもって示しているのだ。

ナルコティクスアノニマスの将来に私が願ってやまないことがひとつある。それは、人知を越えた神わざなど信じないアディクトたちに対してミーティング場の敷居が低くなっていることだ。もちろん、進歩には時間がかかる。だから私は、回復の道歩むなかで自分と同じ無神論者（むしんろんしゃ）たちと出会ったら、神の存在を信じていなくても大丈夫だということを他の無神論者（むしんろんしゃ）たちとわかちあうようにと励ましている。キリスト教徒、イスラム教徒、ヒンズー教徒、ユダヤ教徒をはじめとするどの宗教の信者であろうと、あるいは無神論者（むしんろんしゃ）であろうと関係ない。NAの12のステップを使っていれば、だれだってアディクションという病気から回復するのだ。私は今でもわかちあいのなかで「神」という言葉を使わないし、これからも使うつもりはない。そんなことをしたら、自分が信じてもないのに、神なるものが存在するとお墨付きを与えることになってしまうから。ただし、神の存在を信じている人たちのことはきちんと認めて、尊重している。

愛と寛容こそ、ナルコティクスアノニマスのミーティングで私たちがわかちあうものであり、それが実感できたから私は歩みをとめないでいられたのだとも言える。そして、これは私だけのことではない。自分たちのわかちあいは、だれもがミーティング場に歓迎されていると感じられるものになっているだろうか。それとも、だれかをのけ者にするようなものになっていないか。そういうことを考える仲間たちがいるかぎり、回復したいと思うアディクトなら「だれでも」回復できるし、「だれもが」歓迎されていると感ずることができる。NAがまちがいがなくそういう場所でありつづけるために、私たちはメンバーとして細心の注意を払う必要があるのだ。

こうしてわかちあわせていただいたことに感謝する。

リップ・W（アメリカ合衆国／ミシシッピ）  
NA Way マガジン 2011年4月号

## ひとときではあっても長居をする

わたしたちがまだ苦しんでいるアディクトたちのために黙想する時間は、ほんのひとときでしかない。すぐに、ミーティング終了の祈りを唱えはじめるからだ。そのわずかな時間に、わたしはいつも願う。自分と同じアディクトが今この瞬間にひどく苦しんでいませんように。そして、わたしたちの慌ただしさについても、心のなかでお詫びの言葉を添える。つい、そうになってしまう。だって、わたしもかつてはだれかの「黙想のひととき」に存在するアディクトだったんだもの。だから、わたしがこうしてしっかりNAにつながる事ができたのも、ひとつには、先につながったアディクトたちが仲間を思う「ひととき」にちょっとだけ長居してくれたからだって思いたい。

AJ・H（アメリカ合衆国／ニュージャージー）



# 「私たちの未来像」 に投資しよう

この『私たちの未来像』に投資しようという記事はここ2年間に特集で連載されているので、毎月、NA Wayマガジンを読んでいる仲間たちならよく知っているだろう。そうでない場合には、インターネットでwww.naway.orgにあるバックナンバーに目を通してもらいたい。この記事は、NAの経済的な自立の重要性を、わたしたちがつねに意識するようになることを意図して掲載されている。地元で、リージョンで、そして国境を越えてと、さまざまに提供されるサービスはNAのグループやメンバーからの支援がなければなしえないのだ。今月号では、NAのサービスについて詳しい情報をお伝えする。

## Did you know...?

### ● [IP \(インフォメーションパンフレット\) #28 『NAのサービスに資金を提供する』](#)

これは、グループに提供されるありとあらゆるサービスをグループが支えていくにはどうすればよいかということに焦点が絞られており、グループがミーティングで使う『伝統7』に関する説明文書の提案も収められている。

### ● [IP \(インフォメーションパンフレット\) #24 『お金の問題：NAの経済的な自立』](#)

これによって経済的な自立というスピリチュアルな原理について話し合うようになれば、この原理がメンバーひとりひとりの回復とNA全体にどのように影響を及ぼすかがわかる。

● 『ザ・グループ・ブックレット』および IP #28

この2つのパンフレットには、NAで提供されるありとあらゆるサービスに対してグループが資金を提供していけるようになるために、さまざまな提案が盛り込まれている。

● 2012年WSC (ワールドサービスカンファレンス) で提出されたリージョナルレポートによれば、それぞれのリージョンが年間に受けとる献金の総額は1400万ドル以下でしかないのに対して、サービス提供による年間の支出は1700万ドルを超えていた。

● 2012年WSCに出席した122のリージョンによる報告には、以下のようなサービスが盛り込まれていた。

- リージョナル ヘルプライン 79
- リージョナル コンベンション 98
- エリア ヘルプライン 444
- エリア コンベンション 279
- リージョナル PR (広報) 活動96
- リージョナル ウェブサイト 105
- H&I (病院施設) パネルの総数 5,204

- リージョナルサービスオフィス 46
- 2010～2011年の年度会計では、NAWS (NAワールドサービス) の収入のうちNA全体による献金が占める割合は10.2%であった。これは過去5年間でみると、最高は12.8% (2007～2008年度) で、最低は8.7% (2009～2010年度) であった。
- 『ベーシックテキスト』は1983年の初版以来、現在までに価格がおよそ8ドルから11ドルに上昇した。また、IP類は (ほとんどのタイトルで) 15セントから22セントになっている。これと同時期の一般の出版市場では、ハードカバー書籍 (単行本) の平均小売価格がおよそ13ドルから30ドルを超えるまでに上昇した。
- 2010～2011年の年度会計では、NAワールドサービスは世界中で誕生し発展しつつあるNAに対して、補助金の支給と無料の文献提供に410,000ドル以上を割り当てた。
- 北米のNAによるNAワールドサービスへの献金は、過去3年間にわたり平均して総額の84%であった。
- 2008年から2012年まで2年おきにワールドサービスカンファレンスが開かれる間に、世界中で行われるNAミーティングの総数は16.5%増え、週間の増加数は53,038から61,800となっている。同時期のアメリカ合衆国とカナダでは8.4%の増加がみられ、週間の増加数は26,779から29,019となっている。
- NAワールドサービスでは2年おきに、ワールドサービスカンファレンスに世界中の国や地域から代表を参加させるため、旅費と宿泊費用を支払っている。2012年のWSCを主催する経費の総額は480,000ドルを上回っていた。

NAWS (NAワールドサービス) ではインフレと長期化する経済的負担に直面して、可能なかぎり経費を削減しようと懸命に努力してきた。それ以外の面では私たちの提供するサービスは変わらざるをえなくなってしまったが、このような努力によっていくつかの点で効率をあげることができた。NA Wayマガジンの購読手続きを変更して合理化することに取り組んだ結果、およそ100,000ドルが節約された。しかも今回の手続き変更によって、インターネット版NA Wayマガジンの購読者数が15,000人をはるかに上回るほど増加することになった。

ここに掲載したデータに興味があれば、ぜひNAWSの「アニュアルレポート (年次報告)」に目を通していただきたい。これはwww.na.org/?ID=ArArchiveで公開されている (「アニュアルレポート」の公開期日は、カンファレンスが開催された翌年の1月である)。このほか、GSRやRCMのメンバーを通して自分たちの属するエリアやリージョンに財務報告を要請すれば、地元の献金で資金提供をしているさまざまなサービスに関して最新の情報を得ることができる。

それぞれのNAの経済的な自立やNAのサービスに資金提供をすることに、みなさんがわかちあえることがあれば、どうか遠慮なくnaway@na.orgへEメールをいただきたい。

スマートフォンで  
読み取れます



NAメンバーなら一度ぐらい、NAワールドサービスに献金してみるのもいいだろう。もちろん、こちらでは一度といわず、何度でも受けつけている。naway@na.org/contribute



# 私たちの第一の目的が、私たちの未来を照らす 検討すべき課題

検討すべき課題（I D T イシュー ディスカッション トピックス）は、次のカンファレンス開催までの2年間を通じて、世界中のNAメンバーたちが話し合いやワークショップで議論をつくす議題となるものだ。今回のI D Tは、今年のワールドサービスカンファレンスのテーマ「私たちの第一の目的が、私たちの未来を照らす」につながるものであり、これも元をたどれば「NAのサービスにたくす未来」の冒頭にある「NAグループがなにをおいてもまず、NAの回復のメッセージを運ぼうとしていれば、ナルコティクスアノニマスの努力はかならず実を結ぶのだ。このような共通の立場で、私たちは全力を尽くす」という一節にゆきつく。

みなさんが意見やフィードバックを提供できるように、自分たちの地域で行われるI D Tの検討会にはぜひ参加していただきたい。今回のI D Tは3つとも、直接間接を問わずに「サービスシステムプロジェクト」と関係があるほか、今年の終わりにスタートする『トラディションズブック』というプロジェクトにも反映される問題である。私たちはことあるごとに、NAメンバーの多様さは私たちの強みだと言っているのではないか。このようなプロジェクトに関わる問題では、まさにその強みを発揮してさまざまな意見を出し合っていたきたい。では、2012年から2014年までの2年間に「検討すべき課題」をひとつひとつみてみよう。

**み**んなも知ってのとおり、俺はもうずいぶん前から何度となく言ってきた。夢を持たない人間は半人前だし、展望のない集まりはなれあいではないってな。俺は今でもそう思っている。だって、そうじゃないか。俺たちはNAで一日一日を生きていることによって、使っていたときには夢でしかなかったことが叶うんだから、そういう日々を重ねて俺たちの思い描く未来が現実のものとなっていけば、NAという仲間の集まりも存在感を増していくにちがいない。

これは夢は夢でも、実現する夢だ。そして夢なら、大きな変化ばかりが思い浮かぶ。だが、進歩はいやというほどの小さな行動があつてのことなんだ。夢なんか、人が1人、2人、3人と集まったくらいで実現できるもんじゃない。大勢の人間が実現に向けて行動するから、大勢の人間が努力するから、大勢の人間が夢のような考えを信じてそれを押し進めていくからこそ、現実のものになるんだ。

ジミー・K（NA20周年夕食会にて）

## 「私たちの未来像」を支援する

これは、前回の2年間から持ちこされた議題である。前回に話し合われた際には、「経済的な自立」、「NAのサービスにたくす未来」と、2つのI D Tに分かれていた。今回は、私たちの未来像とそれを実現する手段および責任について世界中のNAで意識を高めていきたいという考えから、1つのI D Tにまとめられている。

私たちが心に描く未来は、いつの日か・・・

世界中のアディクトがみな、自分の話す言葉でわかりやすく書かれたNAのメッセージを目にする機会に恵まれ、それが新しい生き方に踏みだすきっかけになること。

私たちはアディクションという領域で長足の進歩を遂げたが、それでもなお、地域も文化も言語もさまざまに異なるなかでこの未来像を現実のものにするためには、長い道のりを歩まなければならない。それがときには、途方もないことに思えたりもする。ジミー・Kは左にあるスピーチのなかで、そのことを言い尽くしているといってよいだろう。それによって、どれほどわずかな努力であろうと全力を尽くせば何かが変わるということを、私たちひとりひとりに思い出させてくれるのだ。

このI D Tでは、NAという仲間の集まりがこれからもさらに成長を遂げつつ健全に運営されて発展していくことと、私たちの第一

の目的をかなえることのために、私たちができることに取り組む。NAメンバーたちにはお金のことを問題にするのをはばかる傾向がみられるので、あえてこのような議論の場を設けることで、NAの『伝統7』についてNAの文献に書かれていることを再確認するのだ。

すべてのNAグループは、外部からの寄付を辞退して、完全に自立しなければならない。

ナルコティクスアノニマスでは、自分たちが自由であり続けるために経済的に自立する。自分のもてるものを惜しみなく差し出すことによって、NAのミーティングを開けるようにし、NAのサービス活動を支えていく。そうやってNAを存続させ、この仲間の集まりが世界中に広がるようにするのだ。このようなNAに対する経済的な貢献は、NAのプログラムが新しい生き方を示してくれたことに私たちが感謝の気持ちを示していくうえで絶対に欠かせないもののひとつである。NAのメンバーたちはこのことを心にとめておいていただきたい。

**IP #24 『NAのサービスに資金を提供する』**

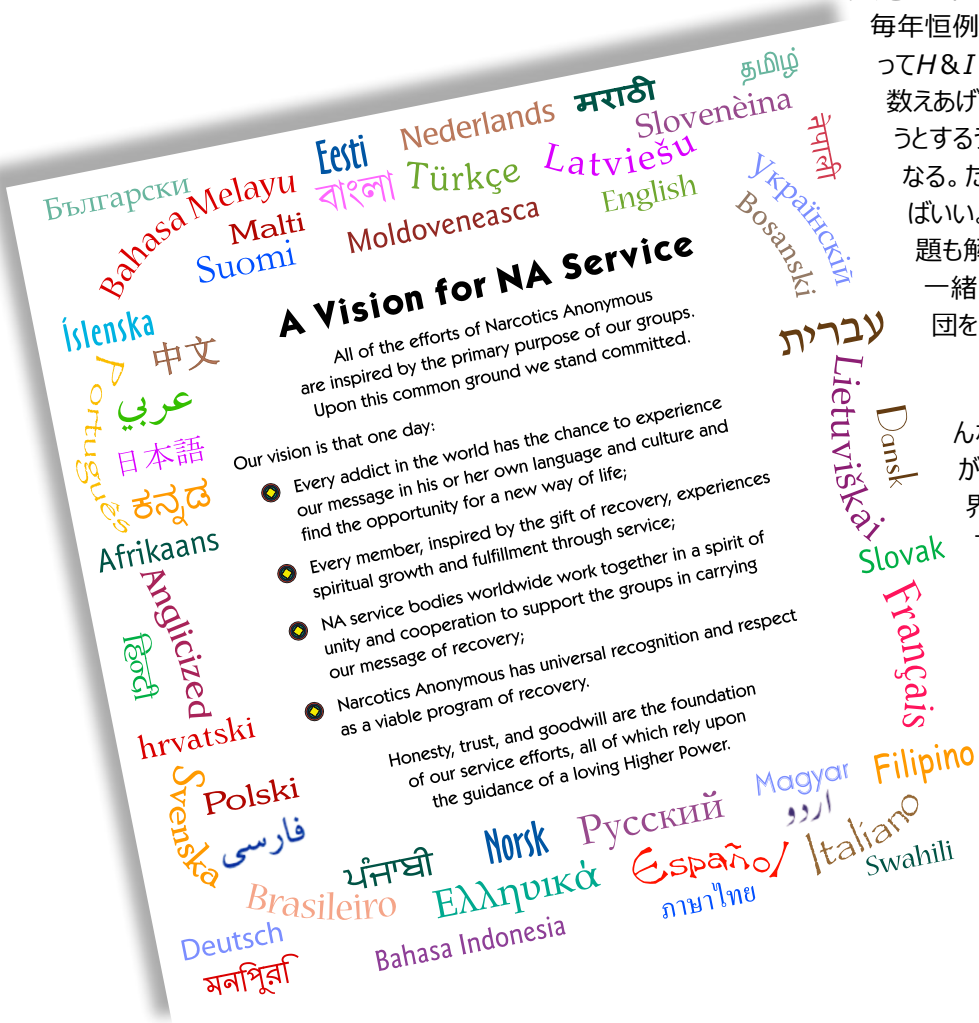
## 共同作業

NAは「みんなで実行するプログラム」である。この「力を合わせれば、私たちはできる」という考えは、ひとりひとりの回復にとどまらず、みんなで行うサービス活動にも生かされるものだ。この共同作業に関するIDTではサービス機関同士の協力のほかに、エリア、リージョン、ゾーンなどそれぞれの活動範囲のなかでどのように協力し合うのが一番良いのかということにも焦点を当てていく。共同作業といっても、共通の目標に向かって協力して取り組むだけのことにはすぎない。ただ、これは、ミーティングの運営をしていくうえでのことであれば簡単にいくのだが、NA全体でのサービス活動となると実行していくのに苦勞することが多い。このため、共同作業はサービスシステム改革案の基本となる5つの活動方針の1つにもなっている。

共同作業は、「共通の目標のために力を合わせて取り組むこと」であるとされている。私たちがNAでどうやって協力し合っているかを考えてみるといい。いろんな共同作業を経験していることにすぐ思い当たるだろう。ミーティングのために椅子を並べること、毎年恒例のピクニックを計画すること、パネルメンバーになってH&I（病院施設）でのサービス活動をするなど、数えあげていけばきりがない。それがつい、むきになってやろうとするうちに、原理よりも個人を優先してしまうことにもなる。だが、そんなときには一歩離れて考えを整理すればいい。それによって、みんなで力を合わせればどんな問題も解決できることがわかる。バラバラに動こうとせず、一緒に相談しながら計画を立てて取り組んでいる集団を、たったひとりで仕切れるものではないのだ。

私たちの第一の目的は、NAの成長のためにみんなで一丸となって実現するものであって、ひとりでがんばっても意味がない。私たちはとNAという世界に広がる大きな仲間の集まりの一員となることで、目的意識をもつようになるのだ。これは『ベーシックテキスト』によっても、最も新しいNAの文献である『リビングクリーン ザ・ジャーニー・コンティニューズ』の最後の章によっても、あらためて気づかされることだ。

もし、私たちが善意で行動しているなら、正



しい目的のために正しいことをすることになり、きっとよい結果をもたらすにちがいない。私たちはそれぞれに与えるものがあるからだ・・・。

なお、共同作業について話し合う際には、次のような問題を検討していただきたい。グループ、エリア、リージョン、ゾーンにおいても、世界に目を向けたサービスでも、私たちがもっと効果的に連繋するにはどうすればいいか。私たちの行く手をはばむものは何か。

## グループの良心

このIDTはもともと「グループの良心、委任（ゆだねる）、説明責任」とされていたので、こうして「グループの良心」となっても、議論はこの3つの原理に及ぶことに変わりはない。この3つの原理は一体となって働き、どれかひとつが欠けてもうまくいかないからだ。それがどうしたことなのかを、ぜひ、NA全体で話しあっていただきたい。私たちはグループ単位でどのような決定をし、何を委任する（ゆだねる）のか。もし、私たちが「サービス機関にグループの決定を一任する」のであれば、そのような権限を与えられたサービス機関が責任をまっとうできるようにするにはどうしたらいいのか？ こうして、この「グループの良心」というIDTは、私たちにさまざまな問題を投げかけてくる。

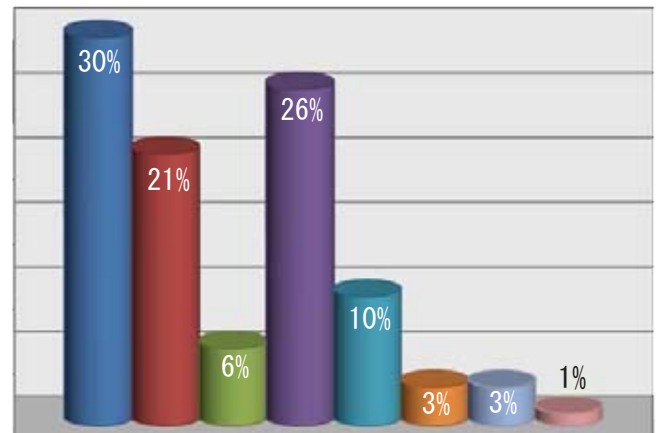
これはまちががなく、地域によって方針が大いに異なる点が問題になる。そこで、2013年WSC（ワールドサービスカンファレンス）では、出席するリージョンの代表たちに、WSCで話し合われる事柄について自分たちのリージョンで良心が決まるに至った経緯をたずねた。これに対して何らかの回答があったのは、提出された122の報告のうちで60に過ぎなかった。それが回答者のパーセンテージとして左の表に示してある。結果は、グループの集計、リージョナルアッセンブリに類するもの、エリアの集計の3項目に大別された。

このように、NAの文献で理想とされていることの生かし方は、それぞれのNAでさまざまに異なることがはっきりわかる。そこで、自分たちの地域で行われていることだけでなく、そのようなやり方をしていく理由についても、みなさんが話し合ったことはぜひ私たちにもわ

私たちがサービスを行う場合、それが、個人としてか、グループとしてか、あるいはコミティ（委員会）やサービスボード（サービスの役員会）としてはともかく、そのサービスの方向付けは自分で理解している神によって示される。私たちが一体となって協力するときはいつでも、この愛なるハイヤーパワーの存在を頼り、その導きを求めている。すると私たちのあらゆる行動の中に方向付けが示される。

『なぜ、どのように効果があるのか』、「伝統2」

リージョンではどのようにして  
CARに関する良心をまとめているか



■ グループによる議決	30%
■ リージョナルアッセンブリ	21%
(出席者のなかで、グループによる議決をしている場合は、上の30%に含まれる)	
■ RSC	6%
■ エリアによる議決	26%
■ メンバーによる議決	10%
■ リージョン代表のみによる議決	3%
■ WSCに関する事柄を話しあっていない	3%
■ ゾーナルフォーラムを通して	1%

かちあっていただきたい。みなさんの経験ほどありがたいものはないからだ。

グループは、自分たちへのサービスのためにつくられたボードやコミティと情報を共有し、指針を求める。一方、ボードやコミティは、グループに対して、活動状況、話し合いの内容計画などを報告する。グループからゆだねられたことに応える責任をもつサービスボードやコミティは、グループに直接影響のあることについてはグループの意見を聞き、まだ方針として固まっていないことについてはグループに相談する。……できることなら、組織的なサービス活動とグループをはっきり分けて考えるべきだ。そうすればグループは、アディクトからアディクトへのメッセージを運ぶという第一の目的を、シンプルかつ明快に果たすことができる。ボードやコミティをつくるのは、必要性だけを考えた結果であるため、その指針はできるだけシンプルなものにしている。

『なぜ、どのように効果があるのか』、「伝統9」





私たちは、パワーポイントによる発表とセッションプロファイルをそれぞれに要点をおさえながらwww.na.org/IDT に掲載していく。また、このサイトでは配付資料やメモ類（メモ書き）など、みなさんがIDTのワークショップを進行させるのに役立つものも提供していくことになる。そのほかには、みなさんがワークショップを開いて得た結果を私たちに送っていただく際に役立つ方法なども検討していくつもりだ。

なお、このサイトでは、次のWSC（ワールドサービスカンファレンス）開催までの2年間を通じて最新情報をお知らせしていくことになる。

それぞれの国や地域のNAで今回のIDTに関する話し合いに時間をさき、IDTで問われていることに関する意見がでたら、NAワールドサービス（worldboard@na.org）まで送っていただくようお願いする。このような話し合いをしていくことでそれぞれの国や地域のNAにはプラスになるだけでなく、さらに自分たちが話し合ったことを意見として提出することによって、NA

ワールドサービスがこれまで以上に世界中のNAグループに貢献できるようになり、次回のWSC（ワールドサービスカンファレンス）も充実したものになるのだ。今回のようなワークショップが、私たちひとりひとりの意識を新たにし、いろいろな解決策を見出し、NAのメッセージを運びやすくする方法について話し合える場になることを願っている。その際には、私たちの第一の目的が励みになるだろう。

各グループの第一の目的はただ一つ、

まだ苦しんでいるアディクトにメッセージを運ぶことである

Tradition Five

**私たちの第一の目的が、私たちの未来を照らす**

IDT profiles and handouts are available at  
www.na.org/IDT

オンライン登録  
[WWW.NA.ORG/WCNA](http://WWW.NA.ORG/WCNA)



ザ・ジャーニー・コンティニューズ

THE JOURNEY  
Continues

2013年 8月29日 - 9月1日

PHILADELPHIA

フィラデルフィア





WCNA 35（第35回N Aワールド コンベンション）では、数々の奇跡が起きているNAの60周年を祝おう！私たちは回復の旅の途中ではじめて、フィラデルフィアに集合することになる。フィラデルフィアは「兄弟愛の街」であり、親しみをこめて「フィリー」と呼ばれている。今さら言うまでもなく、フィリーは大都会だ。その大都会ならではの特色の数々は、私たちが今回のワールドコンベンションを特別でまたとないものにするのに役立つだろう。今回を最後に、2018年まではワールドコンベンションがアメリカで開催されることはない。そんな特別なイベントに、みなさんもぜひ参加していただきたい。そうすれば、N Aではどんなアディクトでも回復できるとわかるし、そのきずなの強さがどれほど素晴らしいものが体験できるだろう。

名前 \_\_\_\_\_ 名字 \_\_\_\_\_

住所 \_\_\_\_\_

国名 \_\_\_\_\_ 〒(郵便番号) \_\_\_\_\_

Eメールアドレス \_\_\_\_\_ 電話番号 \_\_\_\_\_

同伴者 \_\_\_\_\_

※日本語版編集者注釈※  
 WCNAに参加される方は併せて申込書もご参照ください。  
 申込書は<http://najapan.org>よりダウンロードできます。





# 第 35 回 NA ワールドコンベンション

アメリカ合衆国ペンシルバニア州フィラデルフィア

2013 年 8 月 29 日 ~ 9 月 1 日

[www.na.org/wcna](http://www.na.org/wcna)

## スピーカー & スピーカー選考ボランティア募集中

私たちは WCNA 35 (第 35 回 NA ワールドコンベンション) に備えて、コンベンションのスピーカーができそうなメンバーを探している。応募の条件は、ワークショップのスピーカーの場合がクリーンタイム 5 年、メインミーティングのスピーカーの場合はクリーンタイム 10 年とする。これに加えて、ワークショップのスピーカーの場合は WCNA35 への事前登録が必ず必要になる。自薦他薦を問わず、ワークショップまたはメインミーティングのスピーカーになれそうなメンバーがいたら、**2013 年 3 月 31 日**までに下記の資料をこちらに送っていただきたい。その際には、もし入手可能なら、スピーカー候補者の話を録音したものが添えてあるとありがたい。これは、CD 録音であれば郵送、MP 3 ファイルの録音なら E メールで送信するようお願いする。

そして以上のほかにも、私たちは WCNA35 のスピーカー選考に参加してくれるボランティアを募集している。応募者は、少なくとも 5 年のクリーンタイムがあるメンバーが望ましい。この役目を引き受けた場合には、これから数か月 (2013 年 1 月 ~ 4 月) にわたってスピーカー候補者の録音内容を再検討してもらうことになる。スピーカー選考員としてサービスにかかわることに関心のあるメンバーは、**2013 年 2 月 28 日**までに下記の資料をこちらに送っていただきたい。

以下の書類をはじめ、WCNA に関する最新情報については

[www.na.org/wcna](http://www.na.org/wcna) をご覧いただきたい

WCNA の今後の動きに通じておくためにも、ぜひ、[www.na.org/subscribe](http://www.na.org/subscribe) で「WCNA 最新情報の配信サービス」に登録手続きをしておくことをお勧めする。

ワークショップ スピーカー

メインミーティング スピーカー

スピーカー選考員

名前 \_\_\_\_\_ 名字 \_\_\_\_\_

住所 \_\_\_\_\_

国名 \_\_\_\_\_ 〒番号 \_\_\_\_\_

クリーン・デイト (クリーンになった年月日) \_\_\_\_\_ 電話番号 \_\_\_\_\_

E メールアドレス \_\_\_\_\_

これがスピーカーの応募書類である場合には、以下に✓を記入

- スピーカー候補者の mp 3 ファイルを提出 (仕様説明を送信の予定)
- スピーカー候補者の録音 CD を提出

録音提出者の氏名 \_\_\_\_\_

提出者の電話番号 \_\_\_\_\_

提出者の E メールアドレス \_\_\_\_\_

### 応募方法

インターネットの [www.na.org/wcna](http://www.na.org/wcna) で、この書類に記入

E メールで、上の記載事項を [wcna@na.org](mailto:wcna@na.org) へ送信

または上の書式をコピーして記入し、ワールドサービス宛に郵送

NA World Service; WCNA 35 Speakers; Box 9999; Van Nuys, CA 91409 USA







# Picture this

NA communities are invited to send photographs of their meeting places and events. Sorry, we cannot use photos that identify NA members. Please tell us the group/event name, location, how long it has been in existence, format or special traditions, and what makes it a unique part of your NA community.



Photos reprinted from previous issues showing Afghanistan, Bangladesh, Brazil, Canada, Germany, India, Indonesia, Iran, Ireland, Japan, Nepal, New Zealand, Nicaragua, Norway, South Africa,





Readers of the for  
以前に発行されていた『H  
& I (病院施設) ニュ  
ース』を読んでいた仲間たち  
なら、H & I スリムのこと  
はよく知っているだろう。病  
院や施設のどこがいいのか  
わからないという仲間からす  
ると、H & I スリムはきわ  
めつけのH & I 人間だろ  
う。なにしろ、世界中の  
病院や施設でブラブラして  
いるのだ。どこにいても内

部事情にやたらとくわしく、いつもちょこまか動きまわっていないとい  
られないタイプだとも言える。NA Way マガジンが現在のような装  
丁に変わったときに、H & I スリムは新しいNA Way ファミリーの  
一員となった。では、NA Way マガジン 1990 年 10 月号に  
初登場したH & I スリムのコラムを再読しよう。

## 親愛なる H&I スリム

僕のエリアにある更正施設には、H & I のコミットメント (きま  
り) がたくさんあって、これまでパネルリーダーたちは許可を得られ  
るメンバーを見つけるのが大変でした。言うまでもなく、メンバーた  
ちはH & I のパネルなんかやりたがらないみたいです。

たぶん、僕ならパネルメンバーの名簿に載せてもらうことができる  
でしょう。許可を得られるだけのクリーンタイムがあるし、提供でき  
る時間もあります。でも、何人かの仲間たちが、僕は一度も逮  
捕されたことがないから、刑務所にいるアディクトたちに伝えられる  
ものは何もなくて言うんです。

僕は、NA ではみんな同じアディクトだと思っていました。いつ  
も読んでいるリーディングカードのひとつには、私たちが過去に何を  
してきたかは問題ではない、と書かれているじゃないですか。すぐ  
く不安けど、でも、僕だって何かしら与えられるものがあるのではな  
いかと思うんです。それに、僕のエリアのH & I 委員会なら、こ  
うやって協力しようというメンバーを使わないわけではないでしょう。

どうすればよいのですか。

とまどいつつも、やる気はあるメンバーより

## とまどっているキミへ

NA のメンバーが運ぶメッセージは、「アディクトであれば、ど  
んなアディクトであっても、薬物を使うのをやめることができ、使い  
たいという欲求も消え、新しい生き方を見いだすことができる」とい  
うものだ。これは、オレたちが 12 のステップによってアディクションの  
とらわれから解放されたように、アディクトなら、どんなアディク  
トでも自由になれるということにほかならない。オレたちの回復の物  
語はひとりひとりちがうとしても、NA メンバーとして伝えるメッセ  
ージはつねに同じなんだ。

H & I ミーティングの目的は、通常のNA ミーティングに出席  
できないアディクトたちに、このNA のメッセージを運ぶことだ。オ  
レたちはアノニシティ (無名であること) というスピリチュアルな原理  
のおかげで、お互いのちがいを探しをせず、似ているところを認めあ  
えるんだ。キミの言うとおりだよ。オレたちがどれだけ使ったかとか、  
どんな連中とつながりがあったか、過去にどんなことをしてかしたか  
なんて、どうでもいいことだよ。今のオレたちは、自分の問題を解  
決すること、つまり回復に全力を注いでいるんだからな。わかち  
あいたいという意欲があって、あくまでNA の回復のメッセージをし  
っかり伝えようとするメンバーなら、H & I の活動には申し分ない人  
材だろう。

# 読者のページ

## NA Way のみなさんへ

みなさんがこれまで行ってきたことのすごさには、心から称賛を  
送りたい。俺は毎月、NA Way マガジンが届くのが楽しみでな  
らない。今はちょうど、船に乗って働いているところなので、家に  
NA Way が届くとこちらへ送られてくるんだ。みなさんが元気であ  
ることを、心から願っている。

MM (アメリカ合衆国/ルイジアナ)  
NA Way マガジン 1987 年 9 月号

## 変化がなければ、成長もない

こうして新しい雑誌をつくってみんなで読めるようにしてくれる仲  
間たちには、同じNA メンバーながらに感心する。ボクはサービス  
活動を重視してるから、CAR (カンファレンスアジェンダレポート)  
に盛り込まれた動議はもちろん読んでいるし、だから最初は気が  
気じゃなかった。まさきに思ったよ。「NA Way なんて、もうい  
らない」ってね。でも、みなさんが直面している問題がどうい  
うものかは理解できる。そして実際、変化は起こるべくして起きたわけだ  
し・・・ボクは、今回のことを自分の視点だけじゃなく、自分  
にはない視点からも見つめることができる。ボクたちはもっと大きな  
視点で善となることを考えなくてはいけないんだ。変化がなければ、  
成長もない。

トーマス・F (アメリカ合衆国/メリーランド)  
NA Way マガジン 1997 年 10 月号

## ありがとう、NA Way!

これまで 8 年もの間、NA Way マガジンを送っていただいたこ  
とにお礼を言いたくて、この手紙を書いています。NA Way マガ  
ジンを読むことは わたしの回復に絶対に欠かせないものになってい  
ます。これまでずっと、この雑誌が共に歩む仲間になってくれました  
。でも、わたしはとても遠いところに住んでいるので、最初に定  
期購読を希望する手紙を送ったときには、本当にこんなところまで  
送ってもらえるのかしらと疑っていました。わたしには信じる気持ちが  
欠けていたのです。1 か月待っても来ないので、やっぱり届かない  
んだ、もういいやと思っていました。まさか、この雑誌が年に 4 回  
の発行だと、知りませんでした。わたしのところに最初の 1 冊が  
届いたときの興奮と喜びを、どうお伝えすればいいのかわかりません。  
自分が何かとつともなく大きなものの一部になったと感じました。も  
うひとりじゃない、世界中に仲間がいるんだという気持ちがますます  
強くなりました。幸せ、気づきや驚き、悲しみ、何であれ、回  
復の道を歩むアディクトなら経験することが書かれていて、みんな  
自分と同じ思いでいることもわかりました。それからは、ホームグル  
ープのメンバーたちをはじめ、多くの仲間たちとみんな NA Way を  
読むようになったので、みんなが最新の情報や世界中の仲間の経  
験を知ることができました。NA Way に載っているサービスに関す  
る情報と、世界中の仲間たちがわかちあってくれる知恵がなけれ  
ば、わたしは回復の道を歩むことができないでしょう。わたしがこ  
まで来れたのも、みなさんのおかげです。この気持ちを忘れること  
はありません。みなさんは大切な仲間です。これからもがんばって、  
どうか歩みを止めないでくださいね。

アリエル・A (アルゼンチン/ブエノスアイレス)



# カレンダー

Multi-day events and those occurring between publication dates are printed according to the schedule posted online. To enter events or to access event details, visit the online calendar at [www.na.org/events](http://www.na.org/events). (If you don't have Internet access, fax or mail your event info to 818.700.0700, attn: NA Way; or The NA Way; Box 9999; Van Nuys, CA 91409 USA.)

## Argentina

Cordoba 23-25 Nov; Argentina Regional Convention 20; Hotel Luz y Fuerza, Villa Giardino, Córdoba; [www.na.org.ar](http://www.na.org.ar)

## Canada

Ontario 9-11 Nov; Canadian Convention 20; Delta Meadowvale Hotel/Conference Center, Mississauga; [www.canadianconvention.com](http://www.canadianconvention.com)

## Mexico

Sonora 23-25 Nov; Desierto Area Convention; Penasco del Sol Hotel, Puerto Penasco; Valenzuela541@aol.com; Valperaza@hotmail.com

## Netherlands

South Holland 23-25 Nov; Netherlands Area Convention; Engels, Rotterdam; reg@ncna.nl; [www.ncna.nl](http://www.ncna.nl)

## Turkey

Antalya 9-11 Nov; Turkey Region NATA Convention 10; Hotel Suix Lara, Antalya; [www.na-turkiye.org](http://www.na-turkiye.org)

## Venezuela

Anzoátegui 16-18 Nov; Venezuela Regional Convention 7; Hotel Venetur de Puerto La Cruz, Puerto La Cruz; [www.navenezuela.org](http://www.navenezuela.org)

## United States

Alabama 16-18 Nov; Greater Birmingham Area Convention 17; Sheraton Hotel, Birmingham; [www.alnwfl.org](http://www.alnwfl.org)

2) 18-20 Jan; Central Alabama Area Convention; Renaissance Montgomery Hotel, Montgomery; event info: 334.315.0133

California 23-25 Nov; Southern California Regional Convention 33; Ontario Convention Center/Double Tree Hotel, Ontario; [www.todayna.org/convention](http://www.todayna.org/convention)

2) 4-6 Jan; Humbolt Del Norte Area TAC Convention 13; Red Lion Hotel, Eureka; [www.TAC-Convention.org](http://www.TAC-Convention.org)

Connecticut 4-6 Jan; Connecticut Regional Convention 28; Hilton Stamford, Stamford; [www.ctnac.org](http://www.ctnac.org)

Florida 9-11 Nov; New Path Group Rainbow Weekend 15; Fort Lauderdale Marriot North, Fort Lauderdale; [www.rainbowweekend.org](http://www.rainbowweekend.org)

2) 22-25 Nov; Palm Coast Area Convention 31; Double Tree, Palm Beach Gardens; [plamcoastna.org](http://plamcoastna.org)

Illinois 3-6 Jan; Chicagoland Regional Convention 25; Hyatt Regency McCormick Place, Chicago; [www.crcofna.org](http://www.crcofna.org)

Massachusetts 30 Nov-2 Dec; South Shore Area Anniversary 27; Radisson Hotel, Plymouth; [www.nerna.org](http://www.nerna.org)

Missouri 29-Dec-1 Jan; Freedom to Change Convention 19; Embassy Suites, Kansas City; [www.kansascityna.org](http://www.kansascityna.org)

New York 16-18 Nov; Eastern New York Regional Convention; Long Island Marriot, Uniondale; [www.nanewyork.org](http://www.nanewyork.org)

2) 18-20 Jan; Nassau Area Convention 10; Long Island Huntington

Hilton, Melville; [www.nacna.info](http://www.nacna.info)

Ohio 23-25 Nov; Greater Cincinnati Area Convention 14; Kings Island Resort & Conference Center, Mason; [www.nacincinnati.com](http://www.nacincinnati.com)

2) 4-6 Jan; Central Ohio Area Convention 24; Renaissance Hotel, Columbus; [www.nacentralohio.org](http://www.nacentralohio.org)

Pennsylvania 16-18 Nov; Tri-State Regional Convention 30; Seven Springs Mountain Resort, Seven Springs; [www.tristate-na.org/st2live.htm](http://www.tristate-na.org/st2live.htm)

Tennessee 21-25 Nov; Volunteer Regional Convention 30; Chattanooga Choo Choo, Chattanooga; [www.vrcna.org](http://www.vrcna.org)

Utah 9-11 Nov; Utah Regional Indoor Convention 14; Prospector Square Lodge, Park City; [www.cvana.org/convention.htm](http://www.cvana.org/convention.htm)

Virginia 11-13 Jan; Central Atlantic Regional Convention AVCNA 31; Hotel Roanoke/Conference Center, Roanoke; [www.car-na.org/events](http://www.car-na.org/events)

# NAWS PRODUCT UPDATE

## *Just for Today* Numbered Collector's Edition

A special hand-numbered, limited quantity collector's edition, commemorating the two millionth copy.  
Item No. 1115 Price US \$30.00



## *Living Clean: The Journey Continues*

NA's newest book is about the practice of recovery in our daily lives, in our relationships, and in our service to others.  
Item No. 1150 (hardcover) Item No. 1151 (softcover)  
Price US \$8.75



## ePub Books

Available on Amazon and iTunes

*This does not constitute an endorsement of or affiliation with these vendors.*

Amazon (all titles): <http://tinyurl.com/clolqz1>

iTunes (all titles): <http://tinyurl.com/9zj5f3x>

	Amazon		iTunes	
Basic Text	\$8.90	7.60 €	\$8.99	7.99 €



## English

### 2011 Membership Survey

Item No. ZPR001001 Price US \$0.26

### Information about NA

Item No. ZPR001002 Price US \$0.26

## Bengali

### এন.এ. কার্যক্রমে জীবনযাপন

Item No. BE-3109 Price US \$0.22

### পাঁচই বা জন-তথ্য এবং একজন এন.এ সদস্য

Item No. BE-3115 Price US \$0.22

### নারকে টেকিস্ অ্যান্ডে নান্মাসে স্ৰাগতম

Item No. BE-3122 Price US \$0.22







## Brazilian

### *Importância do Dinheiro Autossustento em NA*

Item No. BR-3124 Price US \$0.48

### *Mantendo os Serviços de NA*

Item No. BR-3128 Price US \$0.32

## Danish

### *Offentlig information pög NA-medlemmer*

Item No. DK-3115 Price US \$0.22

### *Til Jer i behandling*

Item No. DK-3117 Price US \$0.28

## German

### *Mitgliederbefragung*

Item No. ZPRGE1001 Price US \$0.26

### *Informationen über NA*

Item No. ZPRGE1002 Price US \$0.26



## Nepali

### *:kf]G;/l;k*

Item No. NE-3111 Price US \$0.22

## Polish

### *Sponsoring*

Item No. PL-3111 Price US \$0.22

### *Dla uzależnionych w trakcie terapii*

Item No. PL-3117 Price US \$0.28

## Spanish

### *Encuesta a los miembros*

Item No. ZPRSP1001 Price US \$0.26

### *Información sobre NA*

Item No. ZPRSP1002 Price US \$0.26

## Turkish

### *Rehberlik*

Item No. TU-3111 Price US \$0.22

## Coming soon

### *Living Clean: The Journey Continues Commemorative Edition*

This distinctive, hand-numbered edition will be available in limited quantity in December.

Item No. 1155 Price US \$30.00

## Greek

Basic Text

### *Ναρκομανεις Ανωνυμοι*

Item No. GR-1101 Price US \$7.50

## Hungarian

Basic Text

### *Narcotics Anonymous*

Item No. HU-1101 Price US \$7.50

## Turkish

*An Introductory Guide to NA*

### *Adsız Narkotik'e Giriş Kılavuzu*

Item No. TU-1200 Price US \$1.80

Deeply discounted

WCNA Merchandise

spirit & unity

is available online!

[www.hicorpinc.com/na](http://www.hicorpinc.com/na)

Clothing, caps, mugs, travel mugs, specialty items like screen/eyeglass cleaning cloths & other WCNA merchandise, too.

Treat yourself or buy a gift for a friend or sponsee/sponsor.

All sales are final and quantities and sizes are limited to stock on-hand.

# Living Clean: The Journey Continues

Our Basic Text assures us that more will be revealed, and our experience bears that out. More has been revealed in the years since those words were written, and more continues to be revealed every day that we live clean and practice the principles of recovery. We grow as individuals, and we also grow and mature as a fellowship. As we learn from our experience, we pass on that knowledge... This book is not a catalog of advice, but rather a collection of experience, strength, and hope about living clean as we experience it in our daily lives, in our relationships, and in our service to others.

Preface

## Living Clean book study groups

We wanted to start this group before the World Service Conference, but we waited until the Conference approved the book. It's not that we don't still love and believe in the Basic Text, but *Living Clean* has given those of us with some cleantime something new to look forward to. We have members with a range of cleantime, including six regular members with more than 20 years clean. The book seems to have little starbursts of information and inspiration. It's fresh again.

Carl P, California, USA

The Fah Mai\* Group started in November 2008 and we began reviewing *Living Clean* 2 January 2012. Seven to ten of us meet on Wednesdays at 1:00 pm, usually with an average of two newcomers per week, along with members who have up to 19 years clean. By a group conscience decision, we keep readings to no more than one paragraph per member because we have found the weight of the material so condensed and meaningful. One of our group's co-founders said, "This book is refreshing and assists me in understanding how to apply our spiritual principles practically in everyday life situations. I'm very grateful for this additional tool to continue living clean."

Bevan P, Bangkok, Thailand

\*in Thai, "fah mai" means new skies, new beginnings, or new horizons

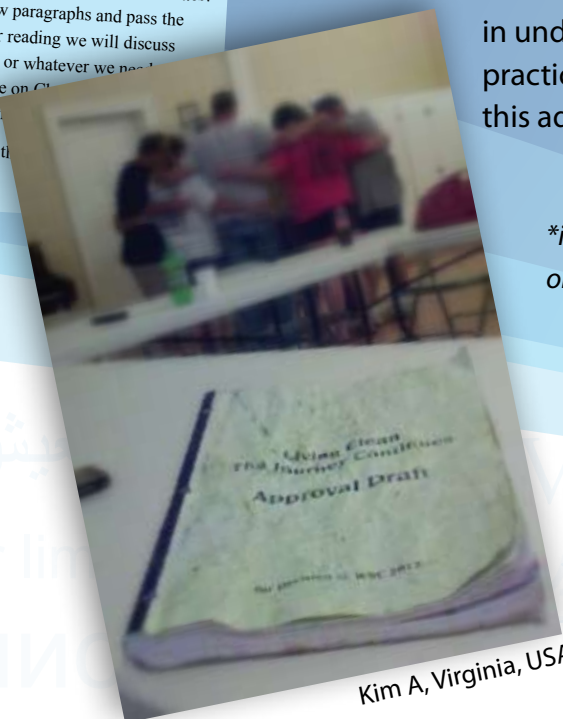
**Meeting Chairperson's Format**

Welcome to the Tuesday night *Living Clean: The Journey Continues* Book Study Group of Narcotics Anonymous. My name is \_\_\_\_\_ and I'm an addict.

I'd like to open this meeting with a moment of silence for the addict who still suffers, followed by the Serenity Prayer...

This is a literature study meeting and we are studying *Living Clean: The Journey Continues*. We each read a few paragraphs and pass the book around. After reading we will discuss what we have read or whatever we need to share. Today we are on Chapter \_\_\_\_\_ we will be reading \_\_\_\_\_

(Chairperson starts the meeting by passing the book around.)



Kim A, Virginia, USA

**Now Available!**

Released 28 September 2012